

2026年2月24日

2025年度 第2回美容科教育課程編成委員会議事録

1. 開会日時 2026年2月24日(火) 13:00-14:30
2. 開催場所 埼玉県理容美容専門学校 2F 実習室 E
3. 出席者 7名

	氏名	所属
1	岡本 春雄	埼玉県美容業生活衛生同業組合 川口支部長
2	古川 聡	埼玉県美容業生活衛生同業組合 浦和支部長常任理事
3	柏木 恵	埼玉県美容業生活衛生同業組合 蕨支部長
4	佐々木 直美	埼玉県美容業生活衛生同業組合 越谷支部・会計理事
5	増村 信雄	埼玉県理容美容専門学校 校長
6	千住 義祐	埼玉県理容美容専門学校 学校本部長
7	原田 怜	埼玉県理容美容専門学校 教務課長
8	橋本 有美	埼玉県理容美容専門学校 美容科教員・教育課程編成委員長

4. 学校長 開会挨拶 (増村校長)
5. 2025年度第2回・教育課程編成委員会の目的 (司会・千住課長)

前回9月に開催された第1回委員会での議論を踏まえ、前期の報告と後期授業の実施状況について各担当が報告し、その後教育課程編成委員との意見交換をすることを説明した。

6. 現況報告 (教務課長 原田 怜)

前期および後期の活動報告として、前回9月の会議で議題となったコミュニケーション能力向上のためのロールプレイングが継続実施され、10月の感謝祭では学生たちが外部のお客様に対して爽やかな対応を見せたと報告された。感謝祭の来場者数は昨年度の236名から324名に大幅増加し、マイクロバブルシャンプーなど内容もレベルアップした。1年生は9月23日の祭りで日本文化の踊りに参加し、地域貢献活動を行った。

7. 定期試験結果・各種検定の報告 橋本先生

試験結果と検定について詳細な報告があった。

- ① 1年生の学科試験では80.1%の学生が追試を受ける結果となり、美容科2年生では107名中40名が不合格となった。実技試験では1年生のワインディングで25%、オールウェーブで38%が追試となった。2年生は107名中10名が不合格となった。
- ② 検定試験については、JNAのジェルネイル検定初級で4名受験中2名が用具忘れや受験票忘れで不合格となり50%の合格率、日本色彩検定3級は54名申込み43名合格で79.6%、日本化粧品検定2級は52名全員合格で100%、JNECネイリスト技能検定は18名全員合格となった。

8. 在校生の評価

- ① 2年生は実技でマイペースな学生が多く、12月段階では国家試験で設定された時間内に課題が完了するか不安定要素が散見されたが、実技試験日近くには改善された。カットでは指を切る学生も減少した。今年度は選択科目でカット・コースを学んだ学生が多かったことが、全体の技術レベル向上に貢献していると推察する。
- ② 1年生は実技で特に問題のある学生はいないが、間が空くと忘れてしまう傾向があり、10月11月の実習時間数の少なさが課題として挙げられた。

9. 卒業・進級について報告 (原田課長)

- ① 2月19日の卒業認定会議で美容科102名の卒業認定が下り、3月卒業予定は107名で、5名は履修時間数が残っているが今週中に終了予定である。
- ② 1年生は116名が進級判定対象となっている。

10. 在籍状況について報告 (橋本委員長)

- ① 73期1年生は入学者120、在籍者としては休学2名を含む122名でスタートした。現在、退学は1名のみと退学は減少傾向にある。72期2年生は入学時120名から1年次退学者が9名、除籍者1名、休学者1名、進級者数は109名となった。2年次退学者は2月24日現在1名であり、在学者は108名である。2年次1名の退学理由は友人関係のトラブルとなっている。
- ② 生活面の課題として、ホームルーム遅刻の常習化、夜遅いアルバイトによる生活の乱れ、集団での発言の少なさ、敬語表現の不足、家庭環境の問題が報告された。

11. 現在の問題提起と意見聴取 (千住部長)

- ① 学生のモチベーション向上について

橋本委員長 : 「国家試験に受かっても落ちてもどっちでもいい」と言う学生への対応に悩んでいる。

岡本先生 : 国家試験の価値と意味を理解させることが重要である。日本の美容師が海外で評価される背景には国家資格がある。

柏木先生 : 個性を活かし、学生の得意分野を見つけて伸ばすアプローチが望ましい。

- 佐々木先生 : 友人関係を活用した相互支援に、問題解決の可能性があるのではないか。
- 古川先生 : 小さな成功体験の積み重ねによるモチベーション向上を提案し、人の役に立つ経験を通じた社会性の育成を図ってはどうか。また、目標の細分化とマニュアル化による個別対応の軽減策も必要である。
- 岡本先生 : 大谷翔平選手のマンダラチャートを活用した目標設定法は効果があると思う。
- 原田課長 : 同様の手法を理容科ですでに実施していることを報告し、継続的な実施が重要なので考慮したい。

② デジタルネイティブ世代への対応。

- 原田課長 : 学生たちがスマートフォンに依存し、手書きでの学習を避ける傾向が強いが強い。
- 古川先生 : 動画作成による学習法を取り入れてはどうか。学生が各単元をYouTube形式でまとめることで理解を深めることも期待される。

③ 退学者数の増加について質問

- 橋本委員長 : 友人関係のトラブルについて、女子学生間での依存的な関係や排他的なグループ形成が問題となっている。
- 古川先生 : どのように対応しているか伺いたい。
- 橋本委員長 : 友人関係でトラブルがあった場合、1年生では進級時のクラス替えでの配慮しか現実的に対応はできない。2年生では卒業優先の方針で助言している。
- 古川先生 : カウンセラー常駐の必要性があるのではないか。人間関係スキル向上のための授業も検討することが望ましい。

④ 学校長の総括

少子化の中で、学生に選ばれる学校づくりが重要性になる。今後も引き続き、助言をいただきたい。

13. 今後の行動項目

- ① マンダラチャートを活用した目標設定を次年度から実施することを検討する。
- ② 美容理論の単元でまとめ動画作成を2年生前期から導入する。
- ③ 国家試験学科対策で合格点に届かない学生への放課後サポートを継続する。
- ④ 次年度新任委員との引き継ぎで今回の議論内容を継続実施する。